

あうんだより

デイサービスセンターあうん広報 / 令和5年5月

相談員 杉澤 琴美

肌寒かった日々を越え、ようやく暖かさを感じるようになりました。寒さが苦手な利用者さんにはホッとする季節になりましたね。今号では、はや行く春を慈しむ4月の様子をご報告いたします。

あうん版・桜を見る会

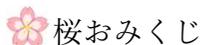
雪がチラホラと降ることも多かった4月。まだ来ぬ春を先取って、あうんではなんとも雅な催しが行われました。あうん13年の歴史の中でも挑戦したことのなかった「製作」に着目。利用者さんと一緒に作り上げる行事を目指しました。



製作

「咲」という文字は、女性の微笑みを表しているそうです。このエピソードにあやかり、女性利用者さんの多い日に八重桜の花の製作を行いました。入学式や卒業式の飾りつけでおなじみのお花紙ですが、利用者さんは見たことがない方がほとんど。あらかじめ束ねてあるお花紙を1枚ずつめくっていきくと…あら不思議、きれいな花が出来上がります。一体どのように作られているの!?!と気になる方が続出でした。

「枯れ木に花を咲かせましょう♪」とお花を桜の枯れ枝に結び付けていきます。単体では芍薬のようだったお花も、枝に咲かせることで八重桜の顔をしていくから不思議です。まるで本物みたいだと喜んでくださり、「枝の張り具合が良いね!」と芸術的観点で見て下さる方もいました。



桜おみくじ

八重桜の木が8割ほど完成したら、今回の行事のメインイベント、桜おみくじを開催しました。お花ひとつひとつに付けてあるのは、職員から利用者さん皆さまへの愛のメッセージ。利用者さんにひとつずつ選んでもらったおみくじを読み上げると、皆さんから笑顔がこぼれます。そしておみくじを外したお花を八重桜の枝の思い思いの場所に結び付けていただき、八重桜は満開を迎えました。全員に手掛けていただいたことで、なおいっそう愛情深いものとなりました。本物よりも美しい!!



桜のデザート

桜おみくじを実施した1週間は、3時のティータイムには職員の手作りミルクプリンを楽しんでいただきました。食べるのがもったいないね!と嬉しい言葉をいただきました。



日々の食卓より



4月某日、嬉しいお届け物がありました。現在は広島県に住む元職員さんが自ら掘った筍です。北海道に住む私たちにとって筍といえば細竹なので、本州の孟宗竹は見るのも珍しいですね。さっそく茹でてあく抜きし、翌日の昼食に。筍ご飯に煮物、一緒に送ってくれた珍しい国産ひじきのサラダも添えて。

「初ものを食べると七十五日寿命が延びる」と利用者さんに教えていただきました。珍しくて美味しい筍を食べて、私たち、確実に健康寿命が延びましたね!!



筍ご飯、筍の煮物、ピーマンの塩昆布炒め、ひじきと大豆のサラダ、味噌汁

こぼれ話

4月に製作した八重桜は、5月に本当の桜が咲いて散る頃までホールの天井に吊るして飾っていました。花を見る方々の目は優しいです。どうやって作ったの?と聞かれたとき、「この皆さんと一緒に作ったんですよ!」とお応えすることが非常に嬉しく誇らしく思います。

一緒にひとつのものを作り上げる達成感にはない喜びとなります。このような機会をこれからもどんどん増やして行けたらと思います。そして今年一緒に枯れ木に花を咲かせた皆様、来年はさらに大きな枯れ木を満開にしましょうね!!

